



ワークショップ報告

三木 一

グリーンアジア国際リーダー教育センター
助教

リーディングプログラムキックオフミーティングの後、親善と情報交換によるグローバルな視点の涵養を主な目的として、太宰府にて一泊二日のワークショップがとりおこなわれた。参加者は、海外招待学生12名、グリーンアジア所属学生6名、モニター生6名、教員6名の計30人である。

キックオフミーティングの余韻も冷めやらぬまま、一同バスにて太宰府のホテルグランディア太宰府へ向かった。ホテルでは、日本式の畳の部屋、建物内土足禁止、フロント前で販売しているお土産などが海外招待学生の印象に残ったようである。ホテルの会議室に集合し、谷本先生による本ワークショップの目的などの説明を受け、初日は解散となった。その後、このホテル最大の売りである温泉に行ったが、残念ながら海外の学生たちは誰も利用しなかったようである。二日目は、朝から会議室に集合し、メインのイベントであるディスカッションが行われた。九大グリーンアジア学生二人と海外招待学生複数を含むグループ4つに分け、それぞれの国の抱える環境問題、鉱物・エネルギー資源、大学における教育や研究の状況などについて活発な議論を行った。昼食をはさんだ上で各グループの意見を取りまとめ、各グループのまとめられた意見を、グループに所属している九大生が、英語により発表を行った。各グループの意見は多岐にわたったが、海外の大企業に自国の資

源が不当に採掘されてしまうことや、そのことの原因である国の政府の戦略の方法、またその結果である環境汚染などが大きな意見であったようである。これらの問題の解決のためには、お互いの国の状況についてよく知り、また様々な分野について研究した上で少しづつ改善していくという形でまとめられた。様々な国の学生同士が話し合うことで、ある国の中では当然に知られている教育や産業、資源の状況や政治における意見も他の国の中では案外知られていないことなどがわかり、お互いの状況や他の国の人による意見も知ることができて、有意義であったと考えられる。

ワークショップの後、あまり時間は残っていなかったが、皆で太宰府天満宮の見学を行った。九州大学の学生を海外の学生数人につける形でいくつかのグループに分けた上で見学を行ったが、海外の学生は日本らしい参道の様子と天満宮の雰囲気到大変満足をしたようであった。大変寒く雪も降ったが、雪を見るのが初めての学生も多く、楽しんでおられたようである。皆がメールアドレス等を交換し、またの再会を約束していた。グリーンアジアプロジェクトにおける提携校同士の交流を学生レベルで行えたということで、大変貴重な機会だったと思います。このような機会を企画していただいた谷本先生、大瀧先生並びに準備していただいたグリーンアジア事務の方々に感謝致します。

